

主要な温室効果ガスの二酸化炭素(CO₂)の吸収源となる国内の森林は荒廃が著しく、吸収力がなくなってしまう。

そんな危機感から九州木材工業の角博社長は、国産材の活用促進により森林を保全する目的で、九州大学や福岡県と産学官連携で高耐久性木材「エコーウッド」を開発した。

低分子フェノール薬剤を木材に注入して硬化。

くさりやす

く割れやす

いという木

材の欠点を

補った無毒

性で準不燃

の木材だ。

寸法安定性

が高いのも

特徴。

一般には

木を切つて

木材として

利用するこ

とは環境破

壊につなが

ると思われがち。しかし

「計画的な植林などでC

O₂吸収源を再生するこ

とになり地球温暖化防止

産学官で高耐久性の木材開発 森林保全へ「国産」活用

に貢献できる」(角社長)という。

住宅メーカーなどと共

同で新製品開発にも積極

的に取り組む。今後は木

材業界だけでなく「防火

地域の住宅に使用しても

らいたい」(同)と意気

盛ん。

▽社長 角博氏▽所在

福岡県筑後市大字和泉

309の1、0942・

53・2174▽売上高

26億円(07年11月期)

▽従業員160人▽設

立1930年6月



角 社長

九州木材工業

福岡の革新群像

飛躍狙う中小企業

14

(隔週水曜日に掲載)